2　ちば道と勝田の獅子舞を訪ねて

蕨　　由美

勝田台北口－台町の稲荷神社－下市場の八坂神社－
又兵衛割の群集塚－仲山の古墳群－青面金剛・庚申塔－
馬橋の馬頭観音－円福寺－駒形神社－勝田の獅子舞－
梵天塚－勝田台南口

台町の稲荷神社

勝田台北口を出て北へ直進すると，すぐに車の往来の多い成田街道に出る。左折して大和田方面へ行くと，２，３分で左に台町の稲荷社がある（写真１）。

1　台町の稲荷神社

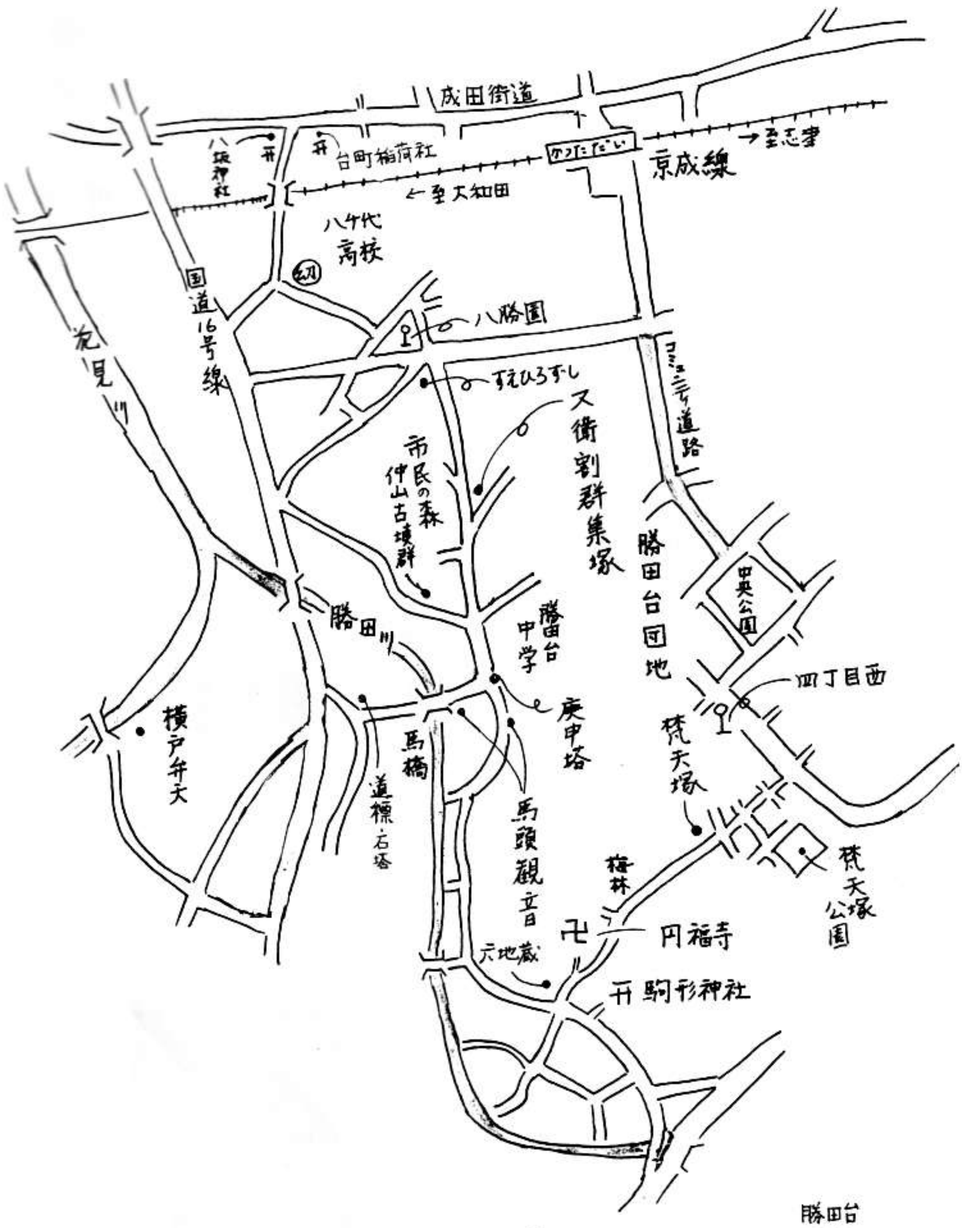
階段を上り赤い鳥居をくぐった境内には，庚申塔と並んで吉橋大師講84番札所の小さなお堂がある。吉橋大師講は，文化４年（1807）に吉橋貞福寺の住職が四国霊場のお砂を持ち帰り，創設したものである。昔は，千葉，葛飾，相馬，印旛の四郡に及ぶ広範囲にわたっていたが，その後，千葉郡の吉橋大師講が独立したり，ほかからの移入したものや新設されたりして，現在の88か所になったものである。

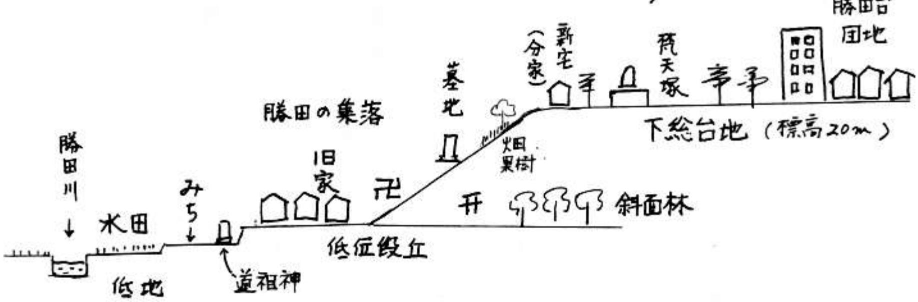
2　下市場の八坂神社

拝殿の奥に朱塗りの本殿があり，その左奥に新旧数基の出羽三山講の碑がある。まだ新しい梵天（修験道の祈禱に用いた幣束）も立っており，大師講と並んで親睦を兼ねた奥州まいりが今も盛んであることがしのばれる。

下市場の八坂神社

台町稲荷社のすぐ先の道を渡った角に八坂神社がある（写真２）。よく整備された境内に真新しい社殿が鎮座しているが，道標を兼ねた庚申塔（天保11年（1840）建立）のほ


成田街道
八坂神社
台町稲荷社
かつただい
京成線
→至志津
←至大和田
八千代高校
幼
八勝園
国道16号線
花見川
すえひろずし
又衛割群集塚
市民の森
仲山古墳群
コミュニティ道路
勝田台団地
中央公園
勝田台中学
勝田川
四丁目西
庚申塔
横戸弁天
馬橋
道標・石塔
馬頭観音
梵天塚
梅林
梵天塚公園
円福寺
六地蔵
駒形神社


勝田台団地
新宅（分家）
梵天塚
墓地
勝田の集落
下総台地（標高20m）
畑
果樹
旧家
斜面林
勝田川
水田
みち
低位段丘
低地
道祖神

勝田の地形と集落

か，手洗鉢などの古い石造物が並び，下市場弥陀堂から移されたという吉橋78番札所のお堂もある。下市場という名のとおり，昔から往来の賑やかなこの地で「牛頭天王さん」として信仰され，現在に至る元気のよい神社である。

庚申塔の「左よこど　ちば」と示すとおり，この神社の角を南に入ると「ちば道」が，今の16号線に当たる，千葉と検見川方面に抜ける昔の生活道路に続いている。

又兵衛割の群集塚

神社の角を南へ入り，京成線の上の木橋を渡り，坂を降りる手前で左へ曲がり，幼稚園の前を通って八千代高校のグランドに沿って行くと，八勝園バス停前に出る。道路を渡って左へ行き，「すえひろずし」前の道を南へ向かう。この道が旧道の「ちば道」で，真っすぐ行くと，左に又兵衛割の群集塚の松林がある（写真３）。

3　又兵衛割の群集塚

4　青面金剛碑

この群衆塚は，小さな塚が19基ある遺跡で，丁度，直進すると横戸，左折すると臼井へ抜ける三叉路にあるため，横戸方面からきた人のための道標を兼ねた青面金剛碑がある（写真４）。「文化元年（1804）」と「右うすい道　左下いちば道」の銘がある。一部は墓地になっており，「うすい道」を隔てた向かい側に少年野球用のグランドが広がっている。

このグランドは，土地の旧家の好意による提供であると聞くが，通称「あくまの球場」と呼ばれていて，現代っ子には，ちょっと怖い不気味なところのようである。

仲山の古墳群

群集塚から少し行った角を右に折れると，「勝田市民の森」の入口に出る。左側の入口を入ると下草が刈られ，遊歩道の完備した森林公園になっており，奥に直径数メートルの円墳が2基と塚が1基ある。右側の円墳の上に立って南西の方を望むと，眼下に勝田川と水田，16号線，その左向こうに花見川に架かる赤い弁天橋が見え，この仲山の地が文字どおり下総台地の高台の一角であって，古代の人々が生活を営むのに適したところであったことが想像される（写真5）。

5　仲山の古墳群から見る勝田川

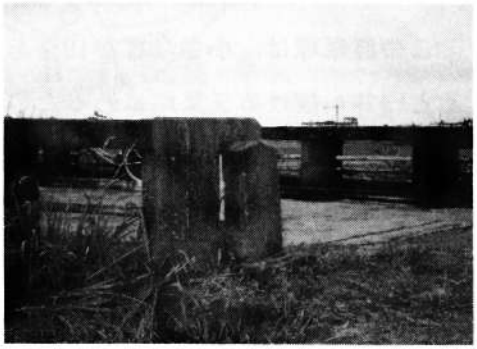
勝田の青面金剛と庚申塔

古墳のある高台からもとの「ちば道」に戻り先に進み急な下り坂を降りると，水田に出る。右手に水田，左手に勝田台中学の斜面林，それに沿った辺田の道を少し行くと，横戸から来た三叉路に出る。ここは旧勝田村の入口で，青面金剛1基，庚申塔2基が並んでいる（写真6）。それぞれ安永，嘉永，万延年間のものである。中央の塔には，リアルな青面金剛像とユーモラスな天邪鬼，三猿がレリーフになっていて，しっかりと道の守りを務めている。

6　勝田の青面金剛と庚申塔

馬橋の馬頭観音

この三叉路を右手に行くと，勝田川を渡る馬橋に出る。橋の左のたもとに馬頭観世音の碑がある（写真7）。橋の向こうは千葉市の横戸で，「ちば道」は，横戸の先で，右へ行く「うらとみち」と分かれて，左へ行っている。



7　馬橋の馬頭観音

橋の上から見る勝田川は，南から北へ流れ，16号線を越した先で逆Ｖ字に花見川に合流し，そこで南へ向きを変えて東京湾に注いでいる。江戸時代から中断しつつ続けられた花見川の印旛沼落し堀開削工事が，昭和44年に完成，それ以来，大和田排水機場が分水嶺となり，勝田川からの水は合流点で花見川を逆方向に流れるようになったが，以前は，そのまま北の印旛沼方面へ流れていたものである。

今は，勝田台団地はもちろん，上流の市街地の生活排水を集める川となり，土地の人のいう「くそ水」になってしまい，かつて水田を潤していた清流の面影がないのは残念である。

橋から引き返して辺田道を南へ行き，運送蓮が建てた馬頭観音（明治29年）の前を通り，道なりに左へ曲がると旧勝田村の集落へ入って行く。

円福寺

旧家の屋敷が並ぶ道を行くと，小さな四つ辻がある。左へ曲がると，左側に寛保２年（1742）建立の六地蔵が迎えてくれ，その先に円福寺がある（写真８）。円福寺は，真言宗のお寺で，萱田の長福寺などと同様に興教大師の開祖で，延宝３年（1675）の開基とされているが，由緒は詳しくは分からないという。

８　円　福　寺

間口６間ほどの本堂には，木造阿弥陀如来のすっきりとした立像が祀られている。左手奥の階段を上ったところに観音堂があり，その左には，享和３年（1803）から昭和60年（1985）までの12年ごとの年代を刻んだ子安講の観音像，秩父34番供養塔がある。その前に15基の馬頭観音が整然と並んでいる。子安講と秩父講は，共に勝田の女性たちによる建立で，彼女たちの観音様に寄せる深い信仰と親睦の証を見ることができる。

観音堂の右裏の斜面には，歴代住職と檀家の墓地がある。山門の左にいちょうの大木，右にモミの木がある。このモミの木は，千葉県の森林に多く見られる「氷河時代に取り残された」モミの木の子孫の一本であるでとかというこで

あり，シイやカシの林を突き抜けて聳え立つ姿は，印象的である。

駒形神社

円福寺前の四つ辻に戻り，先へ行くと火の見やぐらがあり，その左にイヌシデの鎮守の森に囲まれて駒形神社がある。

祭神は若皇産霊命であり，「鎮守」，「おぶすな」と呼ばれる典型的な氏神様である（写真９）。

9 駒 形 神 社

境内には，天明８年（1788）の疱瘡神の石の祠のほか子安大明神，仙元宮，講中などの石塔，そして卵形の力石などがある。力石は，関東各地の神社によくあるもので，最初は占いの手段に，後には力くらべに使用されたものであるという。

勝田の獅子舞

勝田には，二百十日の９月１日に駒形神社と円福寺で五穀豊穣を祈って奉納される獅子舞が江戸時代から伝承されており（写真10），市の無形民俗文化財にも指定されている。

10 勝田の獅子舞

オヤジ，セナ，カカの三匹の獅子が，モトギリ，ハタカケ，タネの三幕の舞を演じ，最後に手踊りをみんなで踊る。幕間に二百十日や雨水害除けの口上があることから，水神信仰にも関係があるようである。

梵天塚

円福寺の山門の右手の道を登ると，右側に道祖神（昭和９年・1934）が祀られている。この急な坂を登ると，左側に早春に美しく咲く梅林があり，畑の向こうに勝田台病院が見える。先へ行き公民館を過ぎると，左手にひときわ高く土盛りをした梵天塚がある（写真11）。

梵天塚には，享保10年（1725）から昭和61年（1986）までの12基の出羽三山供養塔が建てられている。勝田地区では，男は一生に一度，40歳以上になると

「奥州まいり（出羽三山登拝）」をすることになっていて，帰村すると梵天塚に梵天を納め，石碑を建てるものである。円福寺の秩父34番碑が女性名であったのに対して，こちらは全部男性名が連記されている。

11 梵　天　塚

このほかに，２基の庚申塔と１基の二十三夜塔がある。なお，これらは，勝田台の台地造成の際，この場所に移されたものであるという。

この梵天塚の前の通りに立つと，東に志津方面のマンション，ユーカリが丘のタワーが望まれ，この辺ではかなり高い所に梵天塚が築かれていることが分かる。また，勝田７か所の「大辻切り（村の境や入口に祀る〆縄）」が行われる最も東の位置でもあり，勝田台団地が出来る以前の，この台地上が松林と桑や茶畑であったころには，梵天塚は信仰上の山を象徴するのにふさわしい所であったものであることが想像される。

梵天塚から一歩離れると，そこはもう勝田台団地の一角である。そして，塚の右手奥には，梵天塚の名をとどめた梵天塚公園がかつての松林を残して市民の憩いの場所となっている。

梵天塚から真っすぐ進むと，団地を一回りするバス通りに出る。左へ曲がり「五丁目西」のバス停から「勝田台駅北口行き」のバスに乗って駅へ出てもよいが，四丁目西のバス停の角を右へ折れ，中央公園の中を通り，スーパー江口の前から勝田台プラザの前へ通じる八千代市自慢のコミュニテイ道路（公園風の歩行者道路）を通って駅へ出ても，良い散歩道となる。

参考文献

『史談八千代』第10号　八千代市郷土歴史研究会
「昔の千葉道，うらとみちに沿って」　横井和子　鈴木恵美子
「吉橋霊場札所の地図と札所の移動」　吉橋　清
『八千代市の歴史・資料編　自然Ⅰ』　八千代市